

2022 年度事業報告書

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで

2023 年 6 月 17 日

特定非営利活動法人 イカオ・アコ

目 次

- 1 2022 年度活動報告
- 2 2022 年度会計報告
- 3 2022 年度会計監査報告

1. 2022 年度活動報告

1.1 総括

2022 年のイカオ・アコの活動実績として、

(1) イオン環境財団、ニチバン株式会社、リコージャパン株式会社、日中友好会館から植林の助成金、寄付金をいただき、単年度で 156,157 本、累計で 201 万本の植林を達成した（一時、2025 年に 200 万本を達成目標にしていた）。10 年間、支援が続いたアストモスとは年度初めにオンラインのミーティング以降、連絡が途絶えている。

(2) 3 年間の N 連のイチゴプロジェクトが終了し、イカオ・アコに替わり住民組織が主体的に継続する必要がある。6 月 21 日に事業引継ぎのセレモニーを行う予定である。12 月から 2 月にかけて長雨が続き、イチゴの成長に大きな打撃を与えた。イチゴを核とした農業観光に顧客が敏感に反応し、すでに多くの訪問客が来訪している。早急なイチゴ苗のリカバーが必要である。

(3) 毛色が変わったプロジェクトとして、シライ市山間部の炭焼きの実態調査を行っている。開始前は 20 軒程度の炭焼き農家数と予測していたが、ヒアリング調査をしていくうちに、芋づる式に炭焼き農家が見つかり、現在 169 件に達している。さらに地球環境基金の助成金を得て、ボホール島の離島を対象とした、ごみの減量化プロジェクトを実施している。離島からプラスチックごみを本島に輸送する必要があるなど、大きな地域を包括した解決策が求められている。

(4) N 連のイチゴプロジェクトの続きとして、ボホールで、雨水を利用した安全な水の供給事業を確保した。2023 年 3 月 31 日より事業を開始している。

を挙げることができる。

このコロナ禍や極端な円安からイカオ・アコの活動が 2021 年度に引き続き、自主事業の部分で停滞している。

(5) 自主事業であるボランティア受け入れ、日本企業の研修の実施が十分にできなかった。大学院生 2 名がインターンとし、マニラの教員 1 名がボランティアとして参加したのみである。

(6) 横浜ゴムから継続的に古着をいただき、フィリピンに送付した。スーパー台風の被害の復旧に横浜ゴム、リコージャパンから助成金をいただいた。

(6) 新しい事務所と研修センターを建設するため、内部のワークショップを 3 回開催した。土地を確保したものの、上物の建設は 2, 3 年先となる可能性がある。

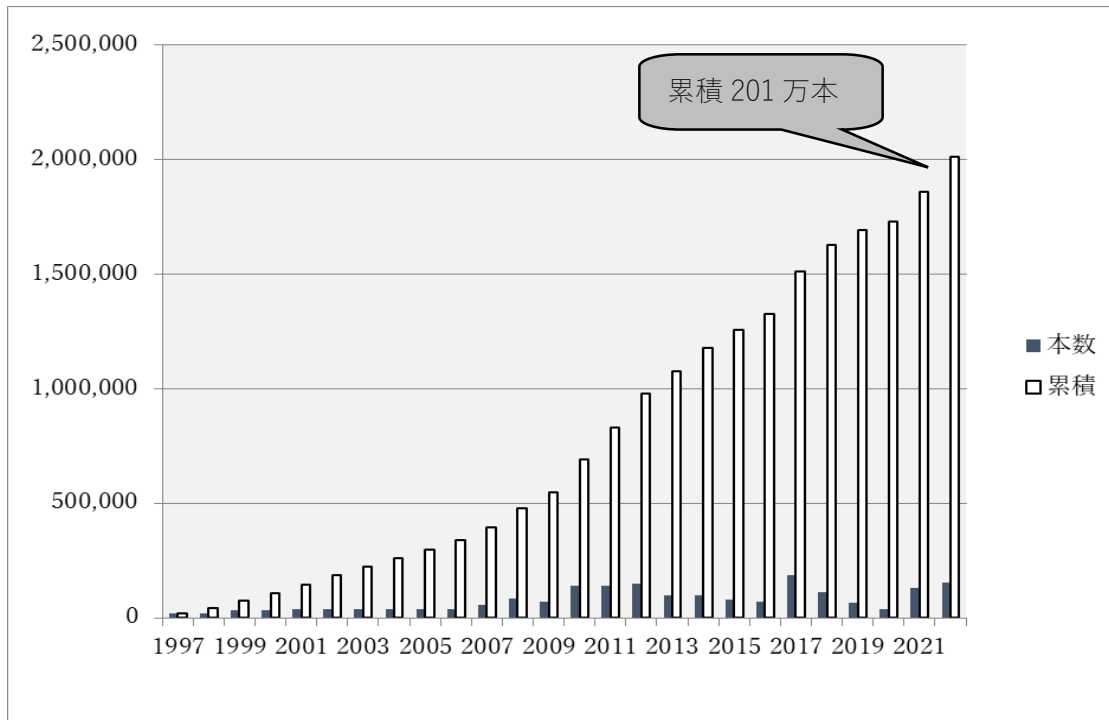
1.2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

助成事業、委託事業として、以下の 5 本を実施した。

- ① 「農家の生計向上を目指す高品質イチゴの観光農園の普及事業」、外務省 N 連
- ② 「マングローブの植林と環境教育」、イオン環境財団

- ③ 「海洋プラ問題の緩和につながる、フィリピンの離島におけるコミュニティベースの3Rとゴミ減量化の実践」、地球環境基金
- ④ 「熱帯林における違法伐採による炭焼きの現状と持続可能性確保の調査・提言事業」、地球環境日本基金
- ⑤ 「気候変動を抑止するマングローブ林の再生事業」、日中友好会館



収入内訳 (2019年度)	会費	20万円	0.5%	自主事業	602万円	15.9%
	寄付金	406万円	10.7%	受託事業	954万円	25.2%
	助成金/補助金	1,800万円	47.6%	その他	0万円	0.0%

収入内訳 (2022年度)	会費	10万円	0.2%	自主事業	20万円	0.4%
	寄付金	902万円	19.2%	受託事業	3,238万円	65.2%
	助成金/補助金	521万円	11.1%	その他	0万円	0.0%

(2) その他の事業に係る活動

このコロナ禍により、その他事業の実施は無い。収入と支出もゼロである。

1.2 会議の開催に関する事項

(1) 総会

① 開催日時及び場所

2022年6月12日 19:00～20:00 オンライン

② 議題

- ・2021年度活動報告
- ・2021年度会計報告
- ・2022年度事業計画

(2) 理事会

① 第1回理事会

・開催日時及び場所 2022年6月12日 20:00～21:00 オンライン

・議題

2022年度事業について

② 第2回理事会

・開催日時及び場所 2022年10月9日 19:00～20:00 オンライン

・議題

2022年度事業進捗について

③ 第3回理事会

・開催日時及び場所 2023年3月11日 19:00～20:00 オンライン

・議題

2022年度事業進捗について

イカオ・アコの中期ビジョン改訂版(案)				2023年～25年		
事業名	植林事業	農業の6次産業化	安全な水供給事業	ソーシャルビジネス事業	国内活動	組織運営
これまでの実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ マングローブ・上流部併せて201万本の植樹、参加者は毎年約4,400人 ・ バラリン・ボカナ・ビクトリアスにエコパーク造成 ・ バラリンの住民団体が自立しつつある ・ 日本の大企業がCSRとしてイカオ・アコの活動を支援 ・ 山間部では植林したコーヒー・カカオの収穫・商品化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肥料・イチゴ栽培の専門家の派遣 ・ 苗会社、肥料会社との連携 ・ イチゴ栽培に必要なハードウェア整備 ・ ボホールに大規模液肥施設の建設（JICA草の根技術協力事業） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本水大賞受賞 ・ バリグアンとシバトにランパンプを設置し、学校や地域に水を供給 ・ ボホールで6地域に雨水を活用した供給システムを建設 	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーガニックカフェ経営7年間 ・ フェアトレード12年間 ・ 国際協力研修センター運営8年間 ・ クラウドファンディングの経験 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 桜丘高校などで特別授業 ・ ニチバン国内植林に参加 ・ 各種研修に参加し、職員の能力開発 ・ ESDコンテスト、七夕短冊コンテスト等のイベントを開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本本部事務所を移転（名古屋NGOセンターと同居し、情報共有などのメリットを追求） ・ Panasonic助成金を受け組織基盤強化に取り組む ・ 事務局職員を採用 ・ 会員管理ソフトを導入
中期ビジョン	植林参加の目的を多様化する	自立的な農業のモデルを作る	安全な水を地域・学校に届ける	ソーシャルビジネスを独立採算制にする	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDGsへの取り組みが多くの人々に知られる ・ 参加型イベントが不定期に行われる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働きやすい職場環境が整い、活動の支援ができる ・ 効果的な会員制度が完成に行われる
重点活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植林事業の見える化の取り組み（植林本数・映像・画像・ツールなど） ・ エコパークを活用したエコツーリズムの再構築 ・ 植林ビジネスの展開（記念植樹・マングローブウェディング・オーナー制度） ・ パガバットフェスティバルなどの植林イベントを開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家現地派遣 ・ イチゴの栽培をネグロスの高地に拡散 ・ イチゴ農園の観光化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ モデル地区に給水設備を設置しモニタリングを実施 ・ 省エネルギー・省資源の利水技術をマスター ・ 行政が主体的に水問題を解決する仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネスの専門家の派遣 ・ ビジネスパートナー（現地スタッフ）の雇用 ・ カフェ、研修センターの再建（事務所を含む） ・ 研修センターを学生だけでなく、企業研修の受け皿に 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不定期に会員同士が交流できる場の設置 ・ 広報に関して①SNSの強化②HPの改訂③広告の活用 ・ フェアトレードグッズを発掘し、国内で販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員制度の構築（既存の個人情報利用、効果的な会員特典、中高生向けの会員制度、入金確認がスムーズにできる管理システムの導入など） ・ 人事制度・就労規則・研修制度などの整備 ・ 国内インターン・ボランティア・プロボノの受け入れ ・ 総会・理事会の定期開催
3年目標と成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間植林参加者数が、日本人100人、フィリピン人4,000人 ・ 植林に関するビジネス・事業が立ち上がる ・ エコパークの建設、そのための資金の獲得（橋・タワー・看板など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イチゴの生産性を日本水準に接近（1.5t/10a） ・ 観光化促進のため、加工場とカフェの活用 ・ 温室18棟の積極的活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山間部・島しょ部に合った給水技術を啓発 ・ 1年に1枚以上のペースで学校に安全な水を届ける ・ 上記のノウハウを持ったコーディネータを2名以上育成 ・ 行政・住民が参考にできるマニュアルの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーガニックカフェの赤字が解消 ・ 自前の研修センターの建物の建設のため、土地を取得し、コンペ方式で設計計画を決定 ・ 日本企業の研修施設としてセンターの活用を計画する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内で不定期的に活動 ・ 会員同士の顔の見える関係 ・ HPの改訂の実施 ・ HPのアクセス数の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日比で人事制度・就業規則の整備 ・ 国内外でスタッフを12人雇用 ・ 総会・理事会の定期的な開催 ・ 有料会員数が30人 ・ 年間の個人寄付と会費収入が合計18万円